

## 2012 年・秋号

### CONTENTS

寄稿 .....	2
株式会社山下設計 東京本社コスト設計室 植村 潤子	
NEWS .....	2
平成 24 年度 優秀施工者国土交通大臣顕彰を 3 名の施工従事者が受賞	
特集 .....	3-8
第1部 座談会 「シャッター・ドア保守点検専門技術者、女性の資格者増える!」	
第2部 意見交換会 「シャッター・ドア施工専門技術者資格認定制度について聞く!」	
総務委員会だより .....	9
統計データ .....	10



上) 座談会「シャッター・ドア保守点検専門技術者、女性の資格者増える!」の様子  
左下) 意見交換会「シャッター・ドア施工専門技術者資格認定制度について聞く」の様子

# 違う角度から 建築を見る

株式会社 山下設計  
東京本社 コスト設計室  
植村 潤子

建物を見たとき多く出る感想が建具の大きさや形状に関するのではないだろうか？建具は建築の表情を決める重要な役割を持っているし、建築をやっていない人にも「窓が大きくて明るい」「窓の形が素敵」などと非常に解りやすいからなのではないだろうか。

誰でも、明るくて気持ちの良い空間が好きだし、そんなオフィスで働きたいと思ったりすると思う。また、建具は気持ちの良い空間を作るだけでなく、防火・防煙・防犯など“機能”としても重要である。重要なだけに“お金のかかる部分”でもある。設計者にとっては意匠と予算とを見極める上でも非常に大きな割合を占めるのは建具だ。良い建築を作りたい気持ちは設計者もクライアントも同じだと思う。でも、予算には上限がある…。悩ましいところなのだ。

私たち組織設計事務所には色々な種類の“設計者”がいる。その中でも“異色？”な存在が積算担当者かもしれない。

い。予算内に収まりそうか否か…。図面を本格的に書き始める前に、予算に収まっているかどうかを確認することはとても重要なことだ。どんなに優れた設計をしても、予算に収まらなければクライアントにご迷惑をお掛けすることになるからだ。

基本設計初期の段階、まだまだ細かいことは何も決まっていない。それでも、「行けそうか、否か…」の予測を立てるため大概算は必要なステップだ。当然、詳細な図面はない。その中で、どのように工事費を想定していくのか？「この用途の建物なら、こういうものが必要だろう…」「こんな仕様が一般的だろう」と頭の中で図面を見ながら進めていくが、やっぱり“コミュニケーション”これに尽きる。クライアントは、どのようなことを望んでいるのか？意匠担当はどんなデザインにしたいと思っているのか？幸い、組織設計事務所という会社の特徴からコミュニケーションはとりやすい。時にきついことも言いながら設計者の考えを引き出し、建具なら「その窓いくら」「あのシャッターいくら」と想定していく。そして、必要と考えた場合は専門家に助けを求める…。いかに設計者の思いを引き出すか？どこで専門家の意見を求めるか？工事費に占める割合が大きいだけにこの勘所が重要だ。

正解は恐らくない。もし、正解があるとすれば設計した建物が無事に竣工しクライアントに喜んでいただけた時なのかもしれない。

## NEWS

### 平成 24 年度優秀施工者国土交通大臣 顕彰を 3 名の施工従事者が受賞

平成 24 年度優秀施工者国土交通大臣顕彰がさる 10 月 18 日に東京・港区のメルパルクホールで開催され、協会の会員会社より推薦された広瀬浩次氏、北出修氏、小田美一氏の 3 名の施工従事者が受賞されました。

今回、“建設マスター”となられた 3 名の皆さんは、鋼製建具の施工従事者として 20 年以上にわたって現場で従事されており、2011 年には第 1 回優秀工事従事者表彰として協会より表彰されています。

今回で 21 回目の開催となった優秀施工者国土交通大臣顕彰では、優秀な建設技能者である建設マスターが新たに 362 名誕生し、その総数は 7,646 名となっています。

#### <顕彰者>



広瀬 浩治 氏

所属：(有) ジェイカンパニー  
推薦会社：三和シャッター工業 (株)  
現場従事期間：20 年



北出 修 氏

所属：北出シャッター  
推薦会社：東洋シャッター (株)  
現場従事期間：32 年



小田 美一 氏

所属：小田工業  
推薦会社：(株) LIXIL 鈴木シャッター  
現場従事期間：22 年

# シャッター・ドア 保守点検専門技術者、 女性の資格者増える!



ここ数年、女性の保守点検専門技術者が急速に増えてきています。建築市場がフローからストックへ移行し、メンテナンス市場が注目を集める中で、女性の資格取得者として活躍の場が拡大してきており、各社でも積極的に女性の資格取得を薦めています。

そこで今回、実際に保守点検専門技術者の資格を持つ女性の方にお集まりいただき、今の仕事内容や資格取得の理由、女性ならではのストック市場への向き合い方などを語っていただきました。

出席者（順不同、敬称略）

岩田 奈々 文化シャッター（株）  
松本 美代子 （株）LIXIL鈴木シャッター  
山本 華子 三和シャッター工業（株）  
吉永 規公子 東洋シャッター（株）  
司会 曾根企画広報委員長

**司会** 本日はお集まりいただきありがとうございます。ここ数年、シャッター・ドアの保守点検を行う技術者育成のために当協会が継続して実施している講習会の参加者や、保守点検専門技術者の資格取得者の中に女性が増えてきているということもあり、本日は、資格を取得した4名の女性の方々に集まっていただきました。資格を取得した理由や、増え続けるストック市場に対する保守点検の重要性など、女性ならではの視点で色々な意見をいただきたいと考えています。

### 資格取得の理由

**司会** でははじめに、皆さんが保守点検の資格を取得され

ようと思われた理由についてお聞かせください。

**山本** 私は今、主にエンドユーザーからの緊急修理の対応をしていますが、お客様に安心をご提供するために定期点検



山本 華子 氏



松本 美代子 氏

についてもお薦めしています。そうした仕事をしている以上、自分が今持っている知識を整理して勉強したいと思ったのがきっかけです。

**松本** 私はメンテナンス営業部という部署で全国区のお客様に定期点検の提案をしたり、現場の営業員のバックアップをしています。もとはメンテナンスの現場営業をしていました。具体的には、点検の立会いや工事段取りも対応していましたので、点検に関しての知識が必要ということもあって試験を受けました。ちょうど受験できる経験年数になっていたこともあります。

**吉永** 私の場合はゼネコン相手の営業活動と、作図、工事の打ち合せ等がメインの仕事で、ほとんど新築物件向けの部隊です。ただ、いつどんな部署に異動になるかわかりませんし、商品知識を身につける意味でも資格取得が大切だと会社から推薦を受けました。

**岩田** 私も会社の推薦が主な理由です。現在、主に点検契約の新規開拓をメインにした役割を受け持っていますので、名刺に資格の記載があれば、お客様の信頼も高まるかなと思いました。



岩田 奈々 氏

**山本** 資格を持っていればお客様への説得力が増しますよね。

**司会** 毎日忙しい中、資格取得に向けた勉強も大変だったと思いますが、講習会やテキストは有意義でしたか？

**岩田** シャッターの知識に比べてドアに関する知識はあまりありませんでしたが、電気の部分も含め、基礎的な勉強をわかりやすく学ぶことができました。

**松本** 私も電気の部分が一番勉強になりました。実際にお客様のところへ伺ったときは、電気に関する専門用語がたくさん出ますし、言葉や意味を理解していないと説明できませんので、役に立ちました。

**山本** 私は法規に関する知識が不十分でしたので、とても助かりました。ある程度は理解していましたが、以前はなぜこの場所にこの設備を取り付けなければいけないのか？と聞かれても的確に答えられない場面もありました。講習会は駆け足で、全部頭には入っていないこともあります。会社では机の傍らにテキストを置いて、分からないことがあるとすぐに確認するようにしています。

**司会** 全国の皆さんにも是非そういう活用をしていただければと思います。

## 女性ならではの役割

**司会** では、実際の点検作業や営業活動において、女性ならではの強みを実感されたことはありますか？

**山本** 女性がいると全体的にチームワークが良くなるのではないかというのは、自分がやってきて感じます。男性ばかりのチームだとただ黙って淡々と仕事を進めていってしまうようなところがあると思うのですが、私がスイッチボックスの鍵を持って「次はあっちのシャッターの点検です！」と言いながら順番に回ったりすると、皆さん明るく仕事に取り組めるようです。

**岩田** 私は実際の点検作業ではなく、新規の点検契約を獲得する仕事をしているのですが、“女性だから”という理由で担当者とお話をさせていただけたというケースは多いです。初めは「定期点検」というよりは、「修理の窓口」として、何かお困りの点はありますかとお客様を訪問していました。頻りに訪問するうちにお客様とも次第に打ち解けてきて、定期点検の話や新商品のご提案などにつながっていくケースは多いです。

**吉永** 女性ならではのということであれば、もちろん苦労する点もありますが、現場の所長からとことん追い詰められる



吉永 規公子 氏

ことは男性に比べると少ないということはあるかもしれないですね(笑)。

**司会** では逆に、苦労されている点はどんなところですか？

**松本** 現場で困るのはやはり「トイレ」ですね。新築の現場だとまだ建物ができあがっていなかったり、男性の職人さんばかりなので、男性用トイレしかないですね。最近では女性の職人さんも増えてきていると聞きますが、現場の方々は、私が女性ということで皆さん優しく接して下さいます。中には、「女が何をしに来たんだ」という顔をされたり、なかなか信用してもらえないことはありましたね。

**司会** まだまだ建設業界は男性社会ということを垣間見られるエピソードですね。皆さんは資格を取得されていますが、これから女性の資格取得者が増えて、修理や保守点検の世界に女性が進出することに関してはどうお考えですか？

**岩田** 私はこの業界に女性が増えていくことは良いことだと思います。特に私が実践している飛び込み営業の場合は、男性より女性の方が有利な面もあると思います。まだ女性が珍しい業界なので、男性にとっては当たり前のことであっても、「すごいね」と言われることがよくあります。個人的にはもう少し女性が増えてくれれば、できてあたり前の「基準」が上がるのかなと思います。褒められることは嬉しいのですが、特別扱いされているのも現実かも知れません。

**松本** 現場の雰囲気が変わるということもあるし、お客様受けが良い場合も多いので、女性が増えていくこと自体は良いとは思いますが、現場でのやりとりにストレスを感じる方もいるかと思しますので、やはり向き、不向きがあるかもしれませんね。

**司会** 吉永さんはゼネコンの現場でご苦労もあるかと思いますが、いかがですか？

**吉永** 女性が増えることは賛成ですね。現場の職人やゼネコンの監督にも女性の方が増えてきていますので、女性にも進出してきてほしいです。

**山本** 私も賛成です。シャッターは古くてもいつまでも使えると思っておられるオーナーさんが実際多く、建物自体は建て替えるものではなくてきている今の時代、新設が減っていることもあってメンテナンスの需要は増えていると思います。その中で、もちろん製品の一式交換が望ましいですが、予算が厳しいお客様もいらっしゃると思いますので、それぞれにベストなプランを提案できるように、お客様の立場に立って動ける女性が増えてほしいと思います。

## 女性としてのストック市場への向き合い方

**司会** まさに今山本さんがおっしゃったことなのですが、市場はもう「新築」から「ストック」に変わっていて、ストックをどう囲い込めるかが重要なテーマになってきています。増え続けるストック市場において、安全・安心をご提供するために、いかに徹底した維持・管理を行っていくか、これに尽きると思います。ちなみに、リビングアメニティ協会では、住宅部品を使用するお客様に対してお手入れや点検の意義を認識していただき、より安全・安心かつ快適に使用していただくために、10月10日を「住宅部品点検の日」に制定しました。これは、安全で快適な住生活を送るために住宅部品をきちんと手入れ・点検し、必要に応じて交換、修理を行っていきましょうということで、当協会に関係する商品であれば、窓シャッターやガレージシャッターも対象になってきます。このようにマーケットがストック市場にシフトしていく中で、今まではゼネコンをはじめとする建築業者に目を向けてきましたが、今後はエンド



ユーザーの目線もますます大事になってくると思います。エンドユーザーとしての主婦と、女性の目線は近いですし、細かい気配りも女性の方が得意という場合もあります。

**山本** ただ修理するだけではなく、サービスを添えたプラスアルファの気遣いを折り込んでいくことが、エンドユーザーの心を掴む第一歩になるかもしれませんね。

### シャッターの保守点検について

**司会** シャッターの保守点検については、法制化に向けた取り組みを進めていますが、点検が義務化されていないことからお客様も前向きに検討していただけないのが現実のようですね。

**岩田** そうですね。保守点検をお薦めしても、防災点検は年に2回実施しているよとよく言われます。そのたびに、防災設備の点検と、防火シャッターの点検は全く別物ですよという説明を繰り返して行っています。

**松本** 防災点検の時にシャッターの動作確認をしているという理由から、結局は法律で決まっている部分だけでいいよという話になってしまいます。わざわざ予算をとってまで点検する必要はなく、壊れた時点で対応してくれればいいと言われてしまうこともあります。

**司会** 防災点検のタイミングで、ビルの管理会社の方に引き合わせていただき、防災設備と一緒に防火シャッターの点検をするというかたちが、お客様にとっては理想ですね。

### 仕事のやりがい

**司会** 最後に、あまり資格とは関係ない話ですが、「仕事の



菅根企画広報委員長



やりがい」はどのようなときに感じられますか？

**岩田** お客様から「こういう対応ができますか？」という問い合わせが来ると、信頼されているんだと嬉しく思いますね。あとは、お客様から会社内の別の物件を紹介していただけたときも嬉しいです。

**松本** やはり成約できたときにやりがいを感じますし、自分が受け持ってきたお客様との間で信頼関係が深まり、会社に別の担当者がいるにも関わらず、あえて自分を指名していただけたときはやっていてよかったなと思います。

**吉永** 契約が成立したときや現場の所長と良い関係が築けたときはもちろん、「シャッターは吉永」と言っていただけで瞬間にやりがいを感じます。

**司会** その秘訣は何だと思われますか？

**吉永** 設計と工事の対応が良かったとか、現場をきちんと仕上げることはもちろんですが、最終的には人間関係だと思っています。

**山本** 私はトラブルなく一つの仕事を綺麗に納められたときにやりがいを感じます。そして次にまた何かあればすぐ私を呼んでいただけるような状況があれば嬉しいです。

**司会** 今後、ストック市場がさらに拡大していく中で、われわれ業界のお客様も、従来の建築業者から、管理会社やエンドユーザーにより近いお客様に変わっていくことが予想されます。また、社会の要請として、これまでも増して安全・安心に対する意識は高まっていくはずですから、そこについても女性ならではのきめ細かい対応力が武器になることを考えると、ますます保守点検専門技術者の資格を持った皆さんの活躍の場が広がってくると思います。本日はありがとうございました。



## シャッター・ドア施工専門技術者 資格認定制度について聞く

質の高い施工技術を維持し、製品の安全性を確保することを目的に、この3月より新たにスタートした「シャッター・ドア施工専門技術者資格認定制度」。シャッターおよびドアの施工従事者は約6千名と推定される中、5年間をかけて4千名以上の資格者認定をめざす協会は、認定講習会をこれまでに全国各地で6回開催し、認定者数は10月現在で230名となった。

そして今回、施工技術者資格を取得された4名の施工従事者他の皆さんと、同資格制度の運用に関して主導的な役割を担っている工事委員会の岡本委員に出席いただき、新制度がスタートして8ヶ月が経過したいま、施工現場において新制度はどの程度認知され、施工従事者の皆さんは資格取得を実感されているのか、また、認定講習会の感想をはじめ、施工現場においていま何が問題や課題になっている等をテーマに意見交換会を実施し、その内容をまとめた。



三池氏



田中氏



黒澤氏



池田氏



岡本委員

〈出席者〉(順不同、敬称略)

■三池 俊次 三和シャッター工業(株)市川営業所  
メンテナンス係(工事員)

■田中 竜二 東洋シャッター(株)工務課長

■黒澤 光晴 文化シャッター(株)(福光工業・工事員)

■池田 啓二 (株)LIXIL鈴木シャッター(工事員)

■岡本 光永 協会・工事委員会委員

### 「シャッター・ドア施工専門技術者資格認定制度」 導入の経緯とねらいについて

#### 〈協会・工事委員会より〉

- ・協会では、「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定制度」という保守点検に関する資格者制度を導入しており、第1回目の認定講習会を昭和55年に開催しています。認定講習会は延べ111回開催しており、資格者数は6千5百人に上っています。この資格制度の導入当時、施工と保守点検は一体ということで、両方の制度を一緒に立ち上げる動きがありましたが、シャッター・ドアの取り付けとなると実技を含めて大がかりな講習会となる等の理由から施工については先送りとなり、保守点検のみの資格者制度がスタートしたという経緯があります。
- ・日本サッシ協会では「サッシ級」というサッシを取り付けるための国家資格について、講習実施機関として技能者講習を実施しており、講習内容にはアルミの窓や格子を丸一日かけて取り付けの実技が伴います。このサッシ級の資格者が施工現場でシャッターやドアの取り付けを行って

いる場合も多いようですが、さらに製品の安全性を確保する上で施工技能力と施工品質力の向上は欠かせないという理由から、当協会では専門の施工技術者を認定する資格制度の導入が必要と判断し、シャッター・ドアの施工に関する統一基準を策定しました。シャッターとドアの施工に際しては、この施工専門技術者資格認定制度に基づいた協会独自の施工基準があることを、まずは現場レベルで認識していただきたいと考えています。

### 認定講習会受講のきっかけと動機について

#### 〈工事員の皆さんより〉

- ・施工専門技術者の資格を持っていればゼネコンさんにアピールできますし、交付される施工専門技術者証によって副次的な効果が生まれればいいと思いました。
- ・将来的にこの資格がないと施工できないという噂を聞いていたので、早い段階で取得した方がいいという判断と、今後も施工の仕事が続いていくのであれば取得した方がいいと考えました。

## ■講習会受講後の感想について

### <工事員の皆さんより>

- ・シャッター取り付けの基礎は勉強になると思いますが、技術者の腕の程度は見えないと思いました。
- ・施工要領書は毎日感覚的に見ていることもあるため、再度見直すことができたという点で勉強になりました。
- ・資格を取ろうとすれば誰でも取得できると感じました。また、この資格で全ての現場には対応できないと思いました。
- ・シャッターとドアのどちらか専門でやっている場合は半分は全く内容がわからないので、将来的にはシャッターとドアを別に分けて開催する方法も一つかと思いました。

### <協会・工事委員会より>

- ・協会としては、いますぐにシャッターとドアを分けて講習会を実施するのは時期尚早と考えます。そういった要望が増えてくれば検討していきたいと考えます。

### <工事員の皆さんより>

- ・講習自体が実務経験を積んでいる方を前提としているので、シャッターとドアそれぞれを専門にしている人が同じ資格を取得することには違和感を持ちました。
- ・ドアを専門にやっている人にもメリットがあるようにした方がいいですね。シャッターであれば付随するドアがありますから、今は両方やっているところが中心のようですね。

## ■資格制度導入後の反響について

### <工事員の皆さんより>

- ・今のところ資格を取得したメリットを感じたことはありません。施工現場で資格証を提示したことはありませんし、提示を求められたこともありませんが、この資格の存在自体がまだ知られていないということだと思います。

### <協会・工事委員会より>

- ・保守点検制度もここ10年くらい前からようやく浸透し始めたという状況ですから、新制度が浸透するまでには何年かかかると考えます。しかし、きちんとした資格を持っていないと現場に入れないとか、取り付けができないという厳しい現場管理が北海道エリアでは求められているという話も聞いていますので、今後は資格そのものが必須という現場が出て来ると考えます。

## ■資格制度の普及・促進方法について

### <協会・工事委員会より>

- ・資格制度の普及・促進を協会が主体となって行うことが協会の一番の役割だと思いますが、資格者数がもう少し増えた段階で普及・促進を図っていききたいと考えます。そして、皆さん方にも施工に関する資格があることを何らかの

機会を通じて言っていただくという相乗効果が図れればと考えています。

- ・皆さんの名刺に施工専門技術者認定員という資格の名称を入れていただいてもいいと思います。
- ・現場で一番目立つのは作業服かヘルメットだと思いますので、ヘルメットに資格者のシールを貼るという方法も協会として検討する考え方もあります。

### <工事員の皆さんより>

- ・研削といしやアーク溶接など最低限持っておく必要のある資格だけは現場への入場の際にチェックされますから、4つの特別教育それぞれについての書類がなくても、一枚の資格証だけを提示すれば特別教育の内容が確認できるオールマイティカードになればいいですね。
- ・手帳とカードの両方を入れておくことのできるカードホルダーがあれば、管理も含めて使い勝手がいいと思います。

## ■直近の現場の状況と課題について

### <工事員の皆さんより>

- ・職長会は月に1回程度の開催ですが、美化委員や清掃委員になるとごみや缶などを毎日回収したり、朝礼前に集まって近隣の清掃を2時間もかけて実施することになります。そうした当番が取り付けを完了しなければならない日にあたってしまうと、一人はその作業に時間をとられますから、結局は残業して終わらせることになってしまいますが、最近は近隣協定があって残業も18時までと制限されています。
- ・残業ができなくなると早出をして作業を前倒しするしかなくなりますが、朝礼の前までに品物の現場搬入を終えるとなると、早ければ6時や7時には作業をするしかなくなります。普通は8時から現場に入るところがその時間となると、自宅を出るのが4時や5時になってしまうこともあります。これからの時期はますます暗くなってきますから、真っ暗な中でランプを点灯させながらの作業となると安全面が心配になります。
- ・また、現場によっては安全面に対しての管理が厳しく、現場によっては保護メガネや耳栓がないと現場に入れません。そうした物品は取り付けに必要ななくても、その都度購入しなくてはならなくなっています。
- ・職長としての拘束時間の増加と残業の増大による早出の実態は、施工従事者にとって今後ますます大きな問題となってきています。

## ■まとめ

今回いただいた貴重なご意見が、協会独自の資格制度のさらなる充実に寄与し、同制度の定着化に向けた後押しとなることで、シャッター・ドアの施工品質の維持向上につながることが期待されます。

## はじめに

総務委員会では、経営者並びに社員の皆様が社内でおこなわれる可能性が高い「法律等」について紹介しています。昨今教育現場での「いじめ」が問題視されていることを受け、今回は第8回の職場での「セクハラ」に続き「パワハラ」について考えていきましょう。

## 職場のパワー・ハラスメントの定義

厚生労働省は、パワハラとして、「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為」、また「上司から部下だけではなく、先輩・後輩間や同僚間、さらには部下から上司に対し優位性を背景に行われるものも含む」と明記しています。



## 上司部下に関係なく

## パワー・ハラスメントの現状

「パワハラ」は相手の人権を無視した不快感を与える行為であり、人権問題のひとつです。ところが組織内での上下関係は絶対的なものであり、上司は部下に対して時として威圧的な言動をしばしばとっています。

- ◆給料分ぐらい働け！
- ◆休憩なんかしないで、さっさと仕事しろ！
- ◆どういう育ち方をしたんだ？ 等々

かつての職場では、ある意味、社会通念上許された言動だったかもしれませんが、現在では働く者の個人としての尊厳は守られるべきものであり、これを侵害する行為は人権侵害と認識されるようになりました。

業務の範囲を超えた個人の尊厳を不当に傷つける言動は、明らかな人権侵害であり、見逃してはならない問題なのです。

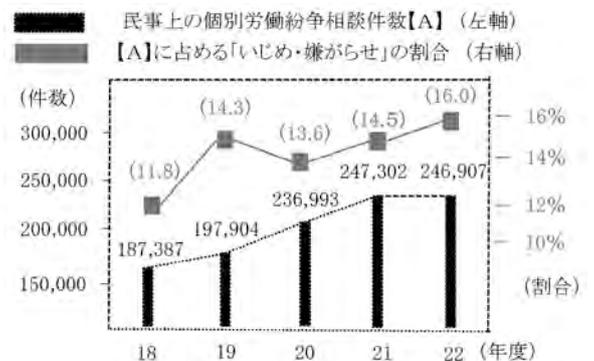


## 気づこう、人権

## パワー・ハラスメントの行為類型

- (1) 暴行・障害
- (2) 脅迫・名誉棄損・侮辱・ひどい暴言
- (3) 隔離・仲間外し・無視
- (4) 業務上明らかに不要なことや遂行不可能なことの強制、仕事の妨害
- (5) 業務上の合理性がなく、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じることや仕事を与えないこと
- (6) 私的なことに過度に立ち入ること

## 増え続ける職場でのいじめ相談件数



## パワー・ハラスメントが企業にもたらす損失



## 企業が失うものの大きさ

### ●人的損失の発生

パワハラ行為により職場環境が悪化すれば、働く人の定着率の低下を招くだけでなく、優秀な人材の流失ということも起こり人的損失につながります。

### ●職場環境の悪化

パワハラ行為に対して甘いあるいは許すような職場では、職場環境は確実に悪化していき、快適な人間関係を築くことは不可能になります。

### ●作業効率の悪化

職場環境の悪化は、モチベーションの低下による作業効率の悪化やミスが増加、製品の品質や顧客へのサービスにも影響を及ぼします。

### ●直接的損失

パワハラは時として損害賠償請求など裁判まで進むことがあります。また、ケースによっては使用者責任（民法715条）が問われ、事業主にも損害賠償が生じる場合もあります。裁判に要する弁護士費用や費やされる時間などを考えると、日頃のパワハラ防止がいかに重要か理解できます。

## ■過去1年間出荷推移 <シャッター>

(㎡、前年比・電動化率%)

	H23.10月	11月	12月	H24.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重量シャッター	76,654	83,610	80,495	69,256	80,316	76,737	73,448	69,844	74,855	82,129	91,211	88,307
前年比	-18.1	17.7	15.3	7.1	26.5	22.7	29.8	7.5	5.3	18.0	26.3	18.6
軽量シャッター	206,399	194,883	176,241	130,861	148,462	160,283	228,474	213,196	200,594	203,002	181,614	178,373
前年比	26.5	26.2	-1.4	8.1	7.0	-4.1	39.1	33.7	9.6	22.1	7.3	-1.0
電動化率	22.5	24.5	25.9	25.0	25.5	25.6	19.3	21.8	22.2	24.0	25.2	25.1
グリルシャッター	5,089	5,670	5,245	4,354	5,324	5,098	4,024	4,135	4,022	4,291	4,179	3,813
前年比	-8.3	22.5	11.9	4.6	47.0	19.4	19.4	-0.2	9.3	1.7	-6.4	-19.7
オーバーヘッドドア	17,624	19,176	19,813	14,853	16,863	17,194	14,917	14,791	15,113	19,725	19,544	18,279
前年比	18.4	0.8	21.9	29.0	-1.2	44.8	2.0	-9.6	-4.1	21.9	17.7	-3.5
合計	305,766	303,339	281,794	219,324	250,965	259,312	320,863	301,966	294,584	309,147	296,548	288,772
前年比	10.3	21.8	4.6	8.9	12.6	5.5	34.3	23.3	7.7	20.7	13.0	3.8

## <ドア>

(枚、前年比%)

	H23.10月	11月	12月	H24.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
鋼製重量ドア	39,245	41,689	44,680	40,570	43,200	47,343	32,752	32,601	34,489	36,522	38,273	39,583
前年比	6.2	3.0	2.9	18.3	14.0	18.6	6.0	13.8	9.3	9.5	12.4	13.9
鋼製軽量ドア	53,714	62,200	59,654	56,480	58,353	52,359	44,202	43,835	46,382	36,685	38,140	-
前年比	10.0	-0.6	-14.9	-8.9	-16.1	12.0	37.8	37.9	16.5	-12.2	-10.0	-

## ■年度別出荷推移 <シャッター>

(㎡、前年比・電動化率%)

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
重量シャッター	1,492,832	1,097,308	1,208,205	1,328,258	1,480,370	1,494,399	1,534,537	1,436,147	1,365,508	839,568	839,415	875,978
前年比	16.0	-26.5	10.1	9.9	11.5	0.9	2.7	-6.4	-4.9	-38.5	-0.0	4.4
軽量シャッター	3,487,158	3,333,097	3,190,771	3,038,800	3,473,445	2,935,834	2,871,880	2,488,705	2,175,375	1,972,917	1,915,847	2,039,568
前年比	-6.6	-4.4	-4.3	-4.8	14.3	-15.5	-2.2	-13.3	-12.6	-9.3	-2.9	6.5
電動化率	21.8	22.5	23.2	24.0	24.1	25.1	26.2	26.3	25.4	24.5	26.2	24.5
グリルシャッター	114,744	103,625	101,043	96,616	100,736	100,244	90,630	79,124	61,751	54,719	52,483	55,410
前年比	6.2	-9.7	-2.5	-4.4	4.3	-0.5	-9.6	-12.7	-22.0	-11.4	-4.1	5.6
オーバーヘッドドア	343,957	303,293	299,460	285,952	323,150	297,659	289,307	240,523	217,932	174,936	178,341	204,003
前年比	4.6	-11.8	-1.3	-4.5	13.0	-7.9	-2.8	-16.9	-9.4	-19.7	1.9	14.4
合計	5,438,691	4,837,323	4,799,479	4,749,626	5,377,701	4,828,136	4,786,354	4,244,499	3,820,566	3,042,140	2,986,086	3,174,959
前年比	-0.3	-11.1	-0.8	-1.0	13.2	-10.2	-0.9	-11.3	-10.0	-20.4	-1.8	6.3

## <ドア>

(枚、前年比%)

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
鋼製重量ドア	-	-	-	630,028	557,553	623,432	639,514	635,875	493,689	436,415	448,242	449,988
前年比	-	-	-	8.0	-11.5	11.8	2.6	-0.6	-22.4	-11.6	2.7	0.4
鋼製軽量ドア	-	-	-	894,050	896,529	956,026	971,002	1,003,218	888,996	680,918	618,079	574,528
前年比	-	-	-	-	0.3	6.6	1.6	3.3	-11.4	-23.4	-9.2	-7.0

注) ・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。  
 ・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。  
 ・鋼製軽量ドアは、日本鋼製軽量ドア協議会の統計によります。

新日鐵住金の高耐食性めっき鋼板

**SuperDyma**<sup>®</sup>  
スーパーダイマ

JIS申請中!

環境に優しいクロメートフリー処理!!

「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」へ



**新日鐵住金**

薄板営業部

スーパーダイマの詳しいご案内は

スーパーダイマホームページ URL/

<http://www.nssmc.com/product/superdyma/>

お問い合わせ

E-mail

[superdym@jp.nssmc.com](mailto:superdym@jp.nssmc.com)

2012年10月1日、日新製鋼ホールディングス(株)が誕生しました。  
経営統合によりさらなる事業強化を図ってまいります。

COATED  
STEEL

STAINLESS  
STEEL

ORDINARY  
STEEL

SPECIAL  
STEEL

PROCESSING

日新製鋼(株)と日本金属工業(株)は  
経営統合により、長い歴史の中で  
培ってきた経営資源を結集して  
普通鋼・特殊鋼・ステンレスの3分野で  
事業強化を図ってまいります。

**鉄の可能性を**

**追究する。**

**日新製鋼株式会社** [www.nisshin-steel.co.jp](http://www.nisshin-steel.co.jp)

〒100-8366 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号(新国際ビル) TEL (03) 3216-5566 FAX (03) 3214-5546

## 軽井沢

江戸時代には中山道・浅間の主要な宿場町として栄えた軽井沢だったが、明治時代に入ると街道を行きかう旅人も年々少なくなり、雑穀しか育たない高寒冷地として衰退の一途を辿った。

しかし、明治21年(1888年)、軽井沢の美しく清澄な空気、水、太陽の輝きに魅せられたカナダ生まれの宣教師アレキサンダー・クロフト・ショーが、現在の旧軽井沢の大塚山に簡素な別荘を建て、知り合いの宣教師や文化人たちにその存在を広めたことで、「避暑地、軽井沢」としての歴史が始まった。今では四季を通じての保健休養地として、また都心から気軽に行けるアウトレットモールのある観光地として人々に愛されている。



左上) アレキサンダー・クロフト・ショーが建てた「ショー記念礼拝堂」

右上) 現在では国の重要文化財として指定されている明治後期の純西洋風木造ホテル「旧三笠ホテル」

左下) 紅葉の名所としても名高い「白糸の滝」

右下) 芥川龍之介、志賀直哉、室生犀星など多くの文人たちが愛した老舗旅館「つるや旅館」の中庭

## JSDA 会報 2012年・秋号

発行日：2012年11月 通巻第38号

発行者：社団法人 日本シヤッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-3 フナトビル 4F

tel.03-3288-1281 (代) / fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>